

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 29 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2013

課題番号：23243025

研究課題名(和文) 紛争国における政治的・外交的寛容育成のための民族融和教育手法の確立

研究課題名(英文) Research Project on Communal Harmony Education Methods Conducive to Political and Diplomatic Tolerance

研究代表者

伊勢崎 賢治 (ISEZAKI, Kenji)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：30350317

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,500,000円、(間接経費) 10,650,000円

研究成果の概要(和文)：本取り組み「紛争国における政治的・外交的肝要育成のための民族融和教育手法の確立」は、現代の紛争の主たる特徴である民族対立の解決手段としての民族融和の有り様に関する比較研究を行い、その成果にもとづいて政治的・外交的寛容度を高めることを目的とし民族融和のための大学教育モジュールを開発することを目指した、紛争学と教育学の融合的研究である。

国内の諸民族対立を抱えるインドとパキスタンを主な研究対象地域としたが、比較研究のために他アジア諸国の事例も研究対象とし、アジア全体を対象とした民族融和のための大学教育モジュール開発の可能性を模索した。

研究成果の概要(英文)：This study "Research Project on Communal Harmony Education Methods Conducive to Political and Diplomatic Tolerance" aimed at developing the educational methods to nurture political/diplomatic tolerance based on the comparative research on communal harmony in Asian region. Communal harmony is the crucial element to resolve an ethnic conflict in the contemporary world. This is cross-disciplinary research between the peace and conflict studies and education.

The prioritized area was on India and Pakistan, both embracing internal as well as inter-country conflict. To develop the Asian-focused educational methods, other Asian countries are also involved in this research project.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学国際関係論

キーワード：民族対立 民族融和 政治的外交的寛容 大学教育 平和構築紛争予防

1. 研究開始当初の背景

インドとパキスタンは1947年の独立以来、カシミール地方の領有をめぐる、第1次印パ戦争(1947年)、第2次印パ戦争(1965年)、第3次印パ戦争(1971年)と戦火を交えて来た。ソ連によるアフガニスタン侵攻(1979年)の際には、パキスタンはアメリカにより経済・軍事支援を強化され、対ソ連戦闘の前線となるが、ソ連軍の撤退後カシミールが再び2国間においての争点となり、アフガニスタンの民兵のカシミール係争地への移動及びインドに対しての越境テロの影響で、インドが軍事介入を強化し、一般市民への被害が増大した。こうした背景のもと、カシミール問題は9-11事件(2001年)以降、対テロ戦の文脈の中で国際問題として認識され、2カ国間の領土の問題から住民の人権の問題へと論点に移りつつある。また、当問題の根源がイスラム社会とヒンドゥー社会の相克にも起因することから、宗教コミュニティ間の問題の考察が喫緊の課題である。

民族融和の問題は、当該地域だけでなくバルカン半島などにも見られるように、世界の紛争解決の鍵の一つである。インドにおいての例としては、伊勢崎のインドのスラムにての過去の活動実績により、スラム住民層がいかに対立を根源とした暴力に対する政治的扇動に脆弱であるか、またそのコミュニティレベルの対立構造が過激派組織に利用され、テロリズムの土壌となり、いかに外交レベルにまで影響を及ぼし得るかが観察された。現在の対テロ戦の文脈においても、国内の民族対立が越境テロに影響することから、国家間の対立解決にとって国内の民族融和は非常に重要な影響がある。また、民族融和の考察の上で取り上げるべき政治的寛容について、過去に社会学、政治思想の観点などからの研究はなされているが、9-11事件以降の平和構築学の文脈において十分な研究がなされているとは言い難い。

民族融和のための研究及び教育手法の確立は、行動社会学(Social Work Studies)の分野において各国内のコミュニティレベルで開発・運用されており、コミュニティの対立解決・調和に役立っている実績があるが、複数国間、特に対立しているインドとパキスタンでの共同研究開発がなされた実績は見られない。更に、コミュニティレベルの過激化・急進化が外交レベルのテロに結びつくという研究においても、十分に実証がなされてきているとは言えない。他方、本学にて過去6年間実施されてきた、アジア地域の紛争経験国5カ国5大学の共同研究・教育ネットワーク「グローバル・キャンパスプログラム」は、平和構築・紛争予防分野における国際的な共同研究と教育実践を連関させる教育事業であるが、ここでは異なる国家における国内外の研究者が各国の紛争に関する研究と教育実践に同時に携わることで、紛争当事者間に政治的・外交的寛容性が生まれることが

観察された。国際的な共同研究と教育の実践を相互連関的に行うことが民族融和研究の重要な鍵となることが経験的に実証されたのである。その実証結果をもとに、紛争国間で実施する民族融和支援の研究及び教育手法構築の取り組みが肝要であるとの着想に至った。

2. 研究の目的

このようなインド、パキスタンなど、アジア紛争経験諸国の研究者同士の交流を通じた国際的な共同取り組みにより、各国コミュニティレベルでの民族対立及び融和の現状を分析・解明し、民族融和支援の一助となる大学教育モジュールの開発を行うこととした。教育モジュールの試行・評価の基盤としては、前出のグローバル・キャンパスプログラムの大学ネットワーク基盤を活用した。加えて、外交官や軍幹部を養成する教育機関、外交的決定に影響を及ぼす研究機関にも研究ネットワークを拡大し、設定した評価手法に基づき大学教育の民族融和に与える影響を検証、分析することにより、平和構築に貢献する教育手法のありかたを模索することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 民族融和に関するフィールド研究
コミュニティレベルにおいての民族対立の現状を把握し、対立発生の原因、過程を分析し、融和手法を解明し、それらの比較研究を国家間で実施する。インド、パキスタンを主たる対象とし、国外の研究協力者の協力を得てスラムまたは農村コミュニティにてフィールド調査を行う。

コミュニティレベルでの対立の過激化・急進化が、外交レベルのテロに結びつくという可能性及び傾向を、コミュニティでのフィールド研究を元にし、調査する。

(2) 民族融和のための支援手法の研究
インド、パキスタンの大学機関において研究蓄積のある行動社会学分野の中のトレランス・ビルディング手法を中心とした民族融和支援のカリキュラムを体系立てて分析し、国家間比較を行う。

(3) 大学教育モジュール、授業の評価、検証とそれが民族融和に与える影響の調査
上記1及び2の比較研究を元に、2か国に加えてアフガニスタン、インドネシア、カンボジア、スリランカと共同で、カリキュラム開発、複数国間で授業を実践し、その評価と検証を行う。カリキュラム開発においては、全諸国で共通の基盤となりうるモジュール及び各国のケースに特化された追加的モジュールの二種類を研究開発し、それがいかに民族融和に影響を与えるかの調査を行う。また、授業の実施方法としては各国内で実施する授業と、参画校を国際的に横断する授業を実施する。国際的な授業においては、具体的にはグローバル・キャンパスで実施してきた5カ国間での同期ビデオ会議システム及びウェブサイトを学習のツールとし、学生の事

前・事後のアンケート及びストーリーテリング手法も含めたインタビューにより、その手法の効果を評価する。これらの実践を通じて、いかなる教育の国際化が平和構築に貢献するかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 民族融和に関するフィールド研究
インド・ボンベイ大学およびインドとパキスタンの係争地であるカシミールのインド側に位置するイスラム工科大学をフィールド調査拠点とし、コミュニティの状況と民族融和政策、理論及び実施プロジェクトの調査を実施した。

(2) 民族融和のための支援手法の研究
上記2校に加え、パキスタン側のフィールド研究拠点校を選出した。イスラマバードのカイデアザム大学、パキスタン側のカシミールのアザッド・ジャンム&カシミール大学を拠点とし、各大学の研究協力者の協力を得ながら民族融和支援のカリキュラム分析調査を実施、カリキュラムを開発した。

(3) 大学教育モジュール、授業の評価、検証とそれが民族融和に与える影響の調査
上記4大学に加え、既存のグローバル・キャンパスプログラムの提携校、アフガニスタン：カブール大学、カンボジア：パニヤストラ大学、インドネシア：ガジャマダ大学、スリランカ：ペラデニヤ大学を対象校とし、大学教育モジュールを実施した。授業の評価・検証のために評価手法を確立し、教授陣や学生からアンケートとインタビューにより意見聴取を実施しながら評価結果を分析した。結果、開発された大学教育モジュール実施により、参加者における民族融和のために鍵となる寛容度の向上が観察された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

伊勢崎賢治、菅原文太、紛争解決屋に訊く平和、小学館本の窓、査読無、11巻、2013、3-10

福田彩、Peacebuilding through education - towards nurturing diversification by the distance learning、国際基督教大学教育研究所、査読無、56巻、2013年

田辺 明生、水島 司、岡橋 秀典、三尾 稔、粟屋 利江、長崎 暢子、杉原 薫、堀本 武功、柳澤 悠、『現代インド地域研究』3: 課題と展望 (特別企画 座談会)、査読無、pp. 1-21、2013年

伊勢崎賢治、「非暴力」の未来、風の旅人、査読無、41巻、2011、81-82

松永泰行、Human Rights and New Jurisprudence in Mohsen Kadivar 's Advocacy of "New-Thinker" Islam、Die Welt des Islams、査読有、51巻3-4号、2011、358-381

粟屋利江、南インドのカーストとジェンダー—ケーララにおける母系制の変容を中心に、南アジアの文化と社会を読み解く、査読無、2011、219-251

粟屋利江、1930年代インドにおける「国民国家」の模索—国民・宗教・女性、岩波講座東アジア近現代通史、第5巻、新秩序の模索1930年代、査読無、2011、310-330

〔学会発表〕(計6件)

福田彩、Stress Management of Intercultural Communication in the Context of Synchronous Distance Education、The 14th International Conference on Education Research, Seoul, Korea、2013年10月17日~19日、ソウル大学

岡田昭人、平和構築・紛争予防を目的とした多国間遠隔教育実践と評価方法、留学生教育学会第18回研究大会、2013年8月4日、北陸大学

池田満、伊勢崎賢治、福田彩、Bradley Olson、源氏田憲一、コミュニティ心理学における“社会正義 (Social Justice)”：日本での研究と実践への展望、第16回日本コミュニティ心理学会年次大会、2013年7月13日、慶應義塾大学 (日吉キャンパス)

松永泰行、湾岸・中東における地域抑止体制と域内ダイナミズム、日本国際政治学会、2012年10月21日、名古屋国際会議場

岡田昭人、平和構築・紛争予防学における多国間遠隔教育の教育・評価手法の検討、日本国際教育学会、2012年9月29日、国際教養大学

粟屋利江、インド社会におけるダリト (不可触民) をめぐって、第11回日韓歴史家会議、2011年10月28日~30日、ソウル、世宗ホテル

〔図書〕(計2件)

伊勢崎賢治、かものがわ出版、『『国防軍』私の懸念』、2013年、95ページ

上杉勇司 (伊東孝之 監修、広瀬佳一・湯浅剛編)、吉田書店、平和構築へのアプローチ (担当章題 第20章「平和協力国家日本の構想」再考)、2013、412P、377-396

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.tufs.ac.jp/common/pg/pcs/globalcampus/>

<http://www.peacecommunication.net/isezaki.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊勢崎 賢治 (ISEZAKI, Kenji)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：30350317

(2) 研究分担者

粟屋 利江 (AWAYA, Toshie)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：00201905

八尾師 誠 (HACHIOSHI, Makoto)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20172926

松永 泰行 (MATSUNAGA, Yasuyuki)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20328678

宮城 徹 (MIYAGI, Toru)
東京外国語大学・留学生日本語教育センター・准教授
研究者番号：30334452

岡田 昭人 (OKADA, Akito)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：60313277

山田 文比古 (YAMADA, Fumihiko)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：60509165

上杉 勇司 (UESUGI, Yuji)
早稲田大学・国際学術院・准教授
研究者番号：20403610

池田 満 (IKEDA, Mitsuru)
国際基督教大学・IERS 教育研究所・研究員
研究者番号：90596389

福田 彩 (FUKUDA, Aya)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員
研究者番号：90650375